

# 長野県 公運協だより

第 157 号

発行所  
長野県公民館運営協議会  
長野市若里1-1-4  
県立長野図書館内  
電話 (026) 217 - 6256  
FAX (026) 217 - 7015

## 四年ぶりの参集・対面開催

### 第四十五回全国公民館研究集会 第六十三回関東甲信越静公民館研究大会長野大会

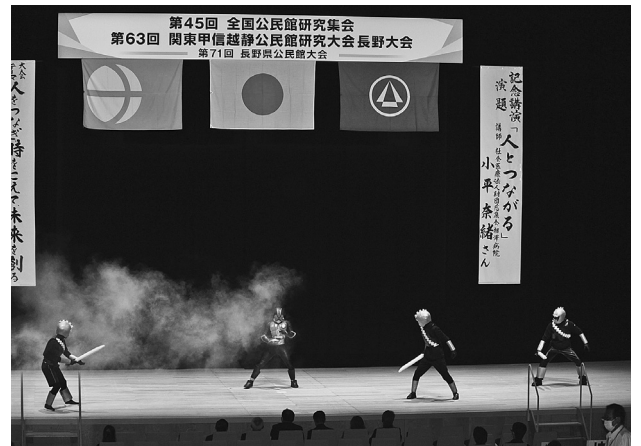
実行委員長 櫻井貞文



「人をつなぎ、時をこえて、未来を創る」住民とともに今を切り拓く公民館」をテーマに掲げ、令和五年九月二十八日・二十九日に長野市芸術館などを会場に開催されました。

長野県での開催は、十一年ぶり六回目、新型コロナウイルス感染症が五類に移行され、令和元年度以来四年ぶりの参集・対面による大会となりました。

長野県らしく、参加してよかったと思っただけの大会を目指し、オープニングは、勇壮な「善光寺木遣り」とSDGsのヒーロー「中公亭サステイナシヨ」で



歓迎。

全体会での記念講演は、長野県が誇る女子スピードスケート金メダリスト、小平奈緒さん、「人をつながる」というテーマで、心に響く言葉の数々、「今後に生かせるキーワードをいただいた」「前向きな気持ちにさせてくれた」「長野まで来た甲斐があった」など数々の喜びの感想をいただきました。

信州ならではのおもてなしの心を込めた情報交換会で交流を深め、二日目の分科会では、「地域防災」「多様な連携・協働」「地域コミュニティの復興」など五つのテーマ

で七会場に分かれて事例発表と助言、熱心な熟議が行われました。コロナ禍を含めた多くの変革のなかで、あらためて公民館の使命を問い直し、住民とともに未来を創る公民館を目指す有意義な機会となったのではないかと思います。大会開催にあたりご苦労をいただいた、長野市や北信公運協の皆さん、大会役員・実行委員及び係員の皆さんに心からお礼を申し上げます。

## 総務部会

部会長 高野 豊

(長野市立朝陽公民館長)

総務部会は、総合案内、連絡、広報、各種受付、案内、応接、救護という業務を担ってきました。

大会前日には、大会参加者に配付する資料の袋詰め、受付の設営等を行い大会への準備を行いました。当日の受付、案内、応接、救護の各業務は、特に問題なく運営できました。

もう一つの担当業務として、「大会冊子」と「大会記録集」の発行があります。

大会冊子の表紙案は、善光寺事

事務局から長野のシンボル善光寺の写真の提供を受けデザインを行いました。また、広告の募集は、五月中旬から全県の役員等の皆様の協力により多くの協賛が集まりました。大会記録集は令和六年一月発行に向けて現在作業中です。

部会員及び関係の皆様のご協力に感謝申し上げます。

## 全体会運営部会

部会長 渋澤 二郎  
(長野市立豊野公民館長)

全体会運営部会は、日程一日目の長野市芸術館メインホールにおける歓迎アトラクション、式典、記念講演などの企画・運営を担当しました。

進行シナリオやステージ配置図の作成、必要物品等のリストアップから手配など、関係する皆様のご協力と七回の会議を重ね、大会前日には準備が整いました。

当日は、総務部会との連携を図りながら、シナリオに沿った進行に心がけ任務に当たりました。

スケジュールどおりに進むかどうか心配していましたが、司会者である副部会長、また、部会員の

皆様には、会場内における案内からステージ転換等、テキパキとそれぞれの役割を果たしていただき、予定どおり終了することができました。

部会員全員の結集がなければ、また、関係者のご協力がなければここまでできなかったと思っております。改めて感謝申し上げます。

## 分科会運営部会

部会長 小池 英樹  
(長野市立城山公民館長)

大会二日目、長野市生涯学習センター、J A長野県ビル、柳原交流センターの三会場で、七つの分科会が行われました。

今大会は、会場使用時間の関係から、分科会打合せを前日の全体会終了後に行い、分科会場準備を、前日夕方から行う必要がありました。そのため、会場係をはじめ、他の係の皆様にも夜までご協力いただきました。

当日の分科会は、各会場とも、各都県代表の発表後、参加者から熱心な質問が出されるとともに活発な意見交換が行われました。まさに、分科会参加者の意識の高さ



がうかがえた分科会でした。また、助言者からも、事例を交えた適切なアドバイスをいただき、討議の柱に関わってたいへん深まりのある分科会となりました。

## 歓迎部会

部会長 松 木 勝  
(長野市柳原交流センター所長)

「長野に行つてよかった」と思ってもらえる公民館大会」を指して、各担当が一致団結し誠意をもって業務にあたりました。

まず、道案内と駐車場案内を行いました。貸切バスの対応には苦慮しましたが、長野市教委家庭・地域学びの課のご支援を得て、何

とか乗り切ることができました。情報交換会は久しぶりとあつて大いに盛り上がりました。メニューでは信州産食材とおもてなし飲料にこだわりました。アトラクションではそば打ちと信州太鼓を実演し、小気味のよい動きで参会者の目をくぎ付けにしました。閉会前には参会者全員で唱歌「ふるさと」(高野辰之作詞)を大きな声で歌うと、「よかった〜」という声があちこちから聞こえてきました。割れんばかりの拍手喝采の中で幕を閉じることができました。思い出に残る素晴らしい情報交換会になりました。





リレー  
コラム「長野県らしい  
公民館とは？」  
⑧4公民館って  
何するところ？

軽井沢町役場

主幹 小山美佳

私が中央公民館に勤務していたのは五年前。すでに公民館の年間活動は動き出していたため、その流れに飲まれるように始まった。

まず『公民館って何するところ？』というテーマで自分の利用経験を思い返してみた。主に利用していたのは分館である支部の公民館。子どもの頃には季節の行事として書き初め大会やどんど焼きがあったが、大人になってからは選挙の投票で行くのみだった。

一方、本館は真つ先に実行委員として携わった成人式が思い出される。庁舎の会議室に教育委員会の担当者や委員が集まって式の運営や予算、記念品などについて話し合いを重ねた。ただ、当日は受付や意見発表等で慌ただしく、さらに緊張も相まってあまり覚えてはいない。

もつと遡ると春休みの映画上映

会や市内の学校が集まった音楽会、歌手のコンサートなどが思い出される。また、家族が大正琴とパソコン教室、フラダンス教室で利用している。

これらを総合して考えると、公民館とは多岐に亘り利用者の需要に応えるところ、ということになりそうだ。公民館での勤務は一年数カ月の間だったが、来館した利用者の方々の交流やイベント運営は楽しかった。

その後、コロナウイルス感染症が流行し、生涯学習や交流の場として利用されていた公民館は休館を余儀なくされた。休館中は人の声も聞こえず、閑散とした館内には除菌・抗菌のためのアルコールのにおいだけが残っていた。

今は活動自体も再開され、人々の生活も戻りつつあるが、まだ全てが元どおりとはいえない。それでもマスクを外せることになって相手の表情が見えるようになり、会話がスムーズにできるようになったのは嬉しい。以前のように公民館が賑わう日が待ちどおしい。

## ブロックニュース

北信

## コロナ禍とその後の飯綱町

飯綱町公民館

主事 遠山真也

飯綱町公民館では、毎年本館主催で町民球技大会を七月に、町民運動会を十月にそれぞれ開催していました。新型コロナウイルス感染症の影響でしばらく開催できていない状況が続きましたが、球技大会は昨年に、運動会は本年度にようやく復活し開催に至りました。ただし、例年どおりの内容で一〇〇%の復活とはいかず、まずは競技を減らし、半日開催としました。その方針になったのは、本館による独断の決定ではなく、飯

綱町にある二十七分館にあてたアンケートによって決定しました。久しぶりの開催で、要領がわからないのは本館より分館の方だと思います。なるべく分館の負担を減らせるような方法で開催を目指しました。

アンケートの結果は、想像していたより前向きな回答が多くありました。しかし、参加したいが、

人が集まらないという回答も多くありまし

た。そこで球技大会は競技種目を変更したり、運動会は、例年だと分館対抗にしていたものを、オープン参加に変更したり、より気軽に少人数でも参加できるように工夫をしました。その結果、球技大会は例年通りの参加があり、運動会は延べ千人前後の参加がありました。

この結果を見て感じたことは、やめるといふ選択をするのではなく、今の状況や、時代に合った形で変化をさせながらリニューアルすることが求められていくのだなと感じました。

これは球技大会や運動会に限ったことではなく、これからの公民館が集う場を作っていくために必要なことだと思います。



# 「こ」に生きる

## 木工×SDGsな講座

上松町公民館

主事 古澤良子



「ひのきの里」といわれる上松町は古くから林業が盛んで、地場産業として木工製品も多く作られてきました。そうした郷土の伝統をより良い形で残していけたらと、

上松町公民館では毎年町内で木工業を営む方に講師をお願いして木工体験の講座を開催しています。

今年度は日光・風・微生物の力を利用して生ごみや枯葉をたい肥に変える、環境に配慮した容器「コンポスト」をつくることに決定。

町内には家庭菜園をしている方や花を育てている方が多くいることもあり、定員の二倍もの応募が殺到する大変人気の講座となりました。

当日、参加者は今まで使ったことのないインパクトレンチの操作に悪戦苦闘したり、ネジ釘を上手く打てなかったりと戸惑う部分もありましたが、講師の丁寧な指導もあり後半になるにつれて大工さんのような手さばきになり、あっという間に立派なコンポストを完成させていました。

職人の高齢化や担い手不足などにより町内の木工職人さんも年々減少している中ですが、地元でこういった講座を開催することにより、地域の産業を見直したり、職人の技術を目の当たりにする良い機会になったのではないかと思います。

## 地域に生きる証を綴る

飯田市竜丘公民館

主事 森本 泉

飯田市竜丘地域は、昔から「文化のむら」として教育活動・公民館活動が盛んに行われてきました。文化的な資源にも多く恵まれ、住民の方々の積極的な学習活動が今日まで行われています。

公民館の民俗資料保存委員会の活動の中に、地域の方々に原稿をお寄せいただき、文集を発刊する事業があります。世相の移り変わりが激しい中で、時代の記録とし

て昭和五十五年に「古老の語り」文集を作成したことを始まりに、平成二十五年までに第五集を発刊してきました。

文集の名前は「丘の語部（おかのかたりべ）」。語り伝えたい出来事、体験、思い出、関わった地域の活動など、地域で生きてきた証を残す貴重な語部集となっています。

このたび第六集の原稿募集を始めました。激動のコロナ禍で変わったもの、変わらないもの。このままだと消えていってしまう記憶を集めていければと考えています。



## 公運協だより

### 編集委員のつぶやき

千曲市上山田公民館

主事 西澤正樹

度回ってくる関プロの運営側として、携わることができたのは、貴重なことだったな。と改めて思います。特に主事の皆さんは、朝早くから夜遅くまで、それぞれの立場で準備・運営等お疲れさまでした。

第六十三回の関プロが終わり、気がついてみれば十二月になっておりました。振り返ってみると、何年かに一

公民館二年目が過ぎようとしています。日々の仕事に追われ、この公運協だよりでいい振り返りができました。